

# 目次

口 絵

序

凡 例

細 目 次

第一章 満州事変の勃発と県内の動き……………三

第一節 満州事変の勃発……………三

一 満州事変の勃発と行政……………三

二 「満州国建国」と国際連盟脱退……………一

三 第三師団の動員と支援体制……………一四

第二節 国民思想の再編成と統制……………三九

一 国民精神作興運動の展開……………三九

二	思想・社会の監視と取締りの強化	五九
第三節	国家的儀礼の挙行と国民統合の強化	七二
一	皇太子誕生	七二
二	熱田神宮本殿遷座祭	八八
第二章	「非常時」下の政党政治と県・市町村行政	一〇七
第一節	「非常時」下の政党と選挙	一〇七
一	既成政党の動揺	一〇七
二	ファシズム勢力の台頭	一三〇
三	粛正選挙	一四六
第二節	地方行政の再編と恐慌への対応	一五九
一	「非常時」の県政と時局匡救事業	一五九
二	農山漁村経済更生運動の展開	一六九
三	社会政策	一七八
四	県庁舎の新築	一九四

第三章 日中戦争の全面化	二〇五
第一節 日中戦争の全面化と愛知県	二〇五
一 盧溝橋事件への対応	二〇五
二 第三師団の戦闘	二二三
第二節 「戦捷」行事と銃後体制の形成	二二九
一 「戦捷」行事	二二九
二 銃後体制の形成	二二八
第三節 日中戦争期の政党と翼賛政治体制の形成	二五三
一 政党政治の崩壊	二五三
二 翼賛政治体制の形成	二七一
第四節 戦時行政機構の形成と県政	二九七
一 地方税制改革と県政	二九七
二 三部制廃止問題	三〇七
三 自治制発布五十周年	三二五

第四章	国家総動員体制下の社会的統合と統制	三三五
第一節	国民精神総動員運動の展開と思想統制	三三五
一	国民精神総動員運動の展開	三三五
二	思想統制運動の推進	三五〇
三	紀元二千六百年祭	三五八
第二節	国家総動員体制の構築と日常生活の統制	三六九
一	労働力の統制	三六九
二	日常生活の統制	三八五
三	統制機構としての常会	三九五
第三節	国家総動員体制下の社会事業・厚生行政	四〇六
一	「健康増進」という国是への対応	四〇六
二	「生活保障」政策の推進	四二五
第四節	「無癩県運動」の展開と愛知県	四三四
一	「無癩県運動」の展開と「十坪住宅」建設募金運動	四三四

二	小笠原登による隔離政策批判	四五四
第五節	満州移民送出政策の展開	四六九
一	満州移民送出政策の展開	四六九
二	「満州東三河村」建設計画の推移	四七九
第五章	日中戦争下における都市の発展と都市構想	五〇五
第一節	「百万都市」名古屋と県内各都市の発展	五〇五
一	「百万都市」名古屋	五〇五
二	県内各都市の発展と小都市計画	五二二
第二節	名古屋汎太平洋平和博覧会と「中京」の確立	五三九
一	名古屋汎太平洋平和博覧会の開催	五三九
二	「中京」の確立と名古屋	五四七
第三節	都市の戦時体制化	五五七
一	防空都市の形成	五五七
二	軍需景気と都市	五六五

第六章	アジア太平洋戦争と翼賛政治体制	五八一
第一節	アジア太平洋戦争の戦局と愛知県	五八一
一	アジア太平洋戦争の勃発	五八一
二	戦局の推移と愛知県の動向	五八五
第二節	翼賛選挙	六〇一
第三節	戦時行政体制の展開と県政	六二二
一	戦局の悪化と県政	六二二
二	地方事務所の設置と広域行政	六三二
第四節	戦時下の部落会・町内会と町村行政	六四六
一	部落会・町内会の整備	六四六
二	戦時下の常会	六五六
三	町村行政の統合化	六七一
第五節	戦時統制と動員の徹底	六七七
一	経済統制	六七七

二	人的動員と生産力増強	六八三
三	物的動員 貯蓄・供出	六九七
四	女性の動員	七二三
五	「謀略」への警戒と取締り	七二八
第六節	戦時動員体制と朝鮮人・中国人	七三三
第七章	空襲・本土決戦体制と戦争の終結	七五七
第一節	防空対策の強化と疎開	七五七
一	防空対策の推移	七五七
二	防空疎開の展開	七七〇
第二節	東南海地震と三河地震	七八六
一	地震被害状況	七八六
二	地震復興	八〇二
第三節	本土空襲の激化と行政の対応	八一〇
一	本土空襲の本格化	八一〇

二 名古屋に対する空襲の激化 ..... 八二一

三 全県規模への空襲の拡大 ..... 八三七

四 愛知県下の「俘虜」「抑留」 ..... 八四九

第四節 本土決戦体制 ..... 八六一

一 本土決戦体制の構築 ..... 八六一

二 本土決戦体制下の愛知県 ..... 八六九

三 国民義勇隊の結成 ..... 八八六

第五節 敗戦 ..... 八九五

解説 ..... 九二三

頻出語句・用語一覧

あとがき

資料提供者及び協力者

愛知県史編さん関係者名簿



## 細目次

### 第一章 満州事変の勃発と県内の動き

#### 第一節 満州事変の勃発

##### 一 満州事変の勃発と行政

1	満州事変についての帝国在郷軍人会の進言 一九三一年(昭和六)九月二十六日……………	3
2	愛国至誠を叫ぶ満蒙問題名古屋市連区民大会 一九三一年(昭和六)十一月十五日……………	4
3	満州事変についての第三師団長より在郷軍人への訓示 一九三一年(昭和六)十一月二十八日……………	7
4	在満将士に対する県会の慰問電文 一九三一年(昭和六)十二月一日……………	8
5	名古屋対外時局連盟の結成 一九三一年(昭和六)十二月九日……………	9
	二 「満州国建国」と国際連盟脱退	
6	満蒙軍事大博覧会の開催 一九三二年(昭和七)九月十五日……………	11
7	一宮市での満州国承認祝賀行事 一九三二年(昭和七)十月二十日……………	14
8	リットン報告書を非難し対国際連盟県民大会開催 一九三二年(昭和七)十一月二十日……………	15
9	愛知県国防義会発会式 一九三三年(昭和八)一月十六日……………	17
10	国際連盟脱退問題についての対連盟県民大会開催 一九三三年(昭和八)二月九日……………	20
11	国際連盟脱退についての第三師団長訓示 一九三三年(昭和八)四月八日……………	21
12	「国際連盟」を小学校教科書から抹消 一九三三年(昭和八)四月九日……………	22
13	詔書(国際連盟脱退)渙発についての知事訓令 一九三三年(昭和八)五月三十日……………	23
	三 第三師団の動員と支援体制	
14	名古屋市若山出動部隊後援会会則 一九三四年(昭和九)三月二十七日……………	24
15	第三師団若山本部隊の満州への動員 一九三四年(昭和九)四月十日……………	26
16	昭和十年度第三師団春季討伐戦闘詳報 一九三五年(昭和十)二三月……………	27
17	軍事扶助統制についての県通牒 一九三五年(昭和十)十二月十七日……………	30
18	「国防婦人会の精神と其行き方」(陸軍少将 周山満蔵) 一九三六年(昭和十)七月……………	31
	第二節 国民思想の再編成と統制	
	一 国民精神作興運動の展開	
19	愛知県における国民更生精神作興運動の概要 一九三二年(昭和七)十月……………	39
20	家庭教育振興についての県通牒 一九三二年(昭和七)十一月二十五日……………	43
21	克己週間挙行についての県通牒 一九三三年(昭和八)九月八日……………	47

22	非常時女性訓練運動高調計画についての県通牒 一九三三年(昭和八)十一月四日……………	51
23	宗教的情操の涵養についての県通牒 一九三五年(昭和十)十二月二十四日……………	52
24	知多郡河和町における更生運動の実態 一九三六年(昭和十一)三月……………	54
25	二 思想・社会の監視と取締りの強化 警察署長会議における知事訓示要旨 一九三二年(昭和七)九月八日……………	59
26	愛知県思想問題研究会規程案 一九三三年(昭和八)十一月三十日……………	61
27	青年訓練所巡閲規程 一九三四年(昭和九)十一月二日……………	62
28	料理屋・カフェー等の営業取締規則の改正 一九三四年(昭和九)十二月二十六日……………	63
29	二・二六事件後の施政についての知事訓示 一九三六年(昭和十一)四月六日……………	66
30	人民戦線運動に対する在郷軍人会の指導要領 一九三六年(昭和十一)九月三日……………	68
31	特高による「不穩文書」県下一斉取締り 一九三六年(昭和十一)十一月十一日……………	69
32	「警察ファッシュ」への反感 一九三六年(昭和十一)十二月四日……………	70
第三節 国家的儀礼の挙行と国民統合の強化		
一 皇太子誕生		
a	皇太子誕生と県内各地の対応	
22	皇太子誕生について県会より祝電 一九三三年(昭和八)十二月二十三日……………	72
23	皇太子誕生についての県通牒 一九三三年(昭和八)十二月二十三日……………	73
24	皇太子誕生奉祝についての丹羽郡丹陽村の対応 一九三三年(昭和八)十二月……………	74
25	皇太子命名式当日の県内各地の奉祝式 一九三三年(昭和八)十二月三十日……………	78
b 皇太子誕生奉祝記念事業		
26	奉祝記念事業として美術館建設についての陳情書 一九三四年(昭和九)三月三十日……………	81
27	奉祝記念事業臨時委員会開会 一九三四年(昭和九)四月十八日……………	82
28	名古屋市奉祝記念事業としての児童公園設置案 一九三四年(昭和九)四月十八日……………	83
29	奉祝記念事業臨時委員会での討議 一九三六年(昭和十一)十二月十九日……………	85
30	皇太子誕生奉祝記念事業公園予定地 一九三七年(昭和十二)六月十四日……………	87
二 熱田神宮本殿遷座祭		
a 国家行事としての熱田神宮遷座祭		
31	熱田神宮本殿遷座祭についての神社局作成資料 一九三五年(昭和十)十月八日……………	88
32	熱田神宮本殿遷座祭についての県通牒 一九三五年(昭和十)十月十八日……………	91
33	内閣官房総務課より「熱田神宮本殿遷座祭要解」送付 一九三五年(昭和十)十月二十一日……………	92

b 熱田神宮奉賛会と愛知県

45 熱田神宮奉賛会協議会での知事挨拶  
一九三五年(昭和十)十月一日……………95

46 熱田神宮寄附金について中島郡町村長会長よりの依頼  
一九三五年(昭和十)十月二日……………97

c 遷座祭の挙行

47 熱田神宮遷座祭当日の名古屋市内の様子  
一九三五年(昭和十)十一月一日……………99

48 熱田神宮遷座祭奉祝協賛会の事業(南区奉祝会)  
一九三五年(昭和十)十二月……………100

第二章 「非常時」下の政党政治と県・市町村行政

第一節 「非常時」下の政党と選挙

一 既成政党の動揺

49 豊橋民政青年団創立大会  
一九三一年(昭和六)十二月四日……………107

50 第十八回総選挙における愛知政友会の大勝  
一九三二年(昭和七)二月二十三日……………109

51 国民同盟樹立運動についての知事報告  
一九三二年(昭和七)六 七月……………110

52 国民同盟樹立と愛知県政界  
一九三二年(昭和七)十二月二十三日……………113

53 政友会愛知県支部の総裁派支持  
一九三四年(昭和九)七月十四日……………115

54 国民同盟加藤綱一代議士の民政党復党  
一九三五年(昭和十)六月二十六日……………117

55 二・二六事件と加藤鎌五郎 加藤鎌五郎日記抄録)  
一九三六年(昭和十)二 四月……………118

56 「国防強化の必要」(加藤綱一)  
一九三六年(昭和十)四月二十七日……………121

57 「近時の財政問題に就いて」(大口喜六)  
一九三六年(昭和十)十一月二十四日……………124

58 県内各地における第二十回総選挙の状況  
一九三七年(昭和十二)四月十八日……………126

59 二大政党の衆議院議員減少  
一九三七年(昭和十二)五月二日……………128

二 ファシズム勢力の台頭

60 中野正剛を迎えた杉浦武雄の東三河政見発表演説会  
一九三二年(昭和七)二月五日……………130

61 鈴木正吾代議士の国家社会主義  
一九三二年(昭和七)七月……………132

62 東三新興青年党の綱領  
一九三二年(昭和七)七月三十一日……………136

63 豊橋市会における第三勢力の進出  
一九三二年(昭和七)十月十三日……………137

64 豊橋市野依町における「昭和会」結成  
一九三二年(昭和七)十二月八日……………138

65 山崎常吉の日本主義への転換  
一九三五年(昭和十)五月二十一日……………139

66 大日本国家社会党愛知県党務局ニュース  
一九三五年(昭和十)十一月……………140

67 愛知県における社会大衆党の不振  
一九三六年(昭和十)十二月……………143

68	山崎常吉の衆議院議員当選 一九三七年(昭和十二)五月二日……………	145
	三 肅正選挙	
69	「政界の浄化」(海軍中将 森 越太郎) 一九三五年(昭和十)八月……………	146
70	選挙肅正徹底に政民提携し邁進 一九三五年(昭和十)九月三日……………	148
71	選挙取締をめぐる警察と政党の対立 一九三五年(昭和十)九月二十日……………	149
72	名古屋婦人の選挙肅正運動への参加 一九三五年(昭和十)九月……………	151
73	婦選獲得同盟愛知県支部選挙肅正活動報告 一九三五年(昭和十)十月……………	153
74	選挙肅正運動実施についての県通牒 一九三六年(昭和十一)一月十八日……………	154
75	岡崎市選挙肅正委員会の活動 一九三六年(昭和十一)二月十日……………	157

第二節 地方行政の再編と恐慌への対応

76	一局「非常時」の県政と時局匡救事業 一局「非常時」の県政と時局匡救事業	
77	時局匡救についての知事の提案説明 一九三二年(昭和七)九月十六日……………	159
78	内務部関係の時局匡救土木事業決定 一九三二年(昭和七)十月八日……………	161
	協力時代の県会 一九三二年(昭和七)十二月二十四日……………	162
79	「昭和八年度市町村予算の執行に就て」(SSS生) 一九三三年(昭和八)六月……………	164
80	時局匡救費復活にむけての政府への運動開始 一九三三年(昭和八)十二月九日……………	167
81	市町村政指導監督についての県の取組み 一九三六年(昭和十一)八月五日……………	168
	二 農山漁村経済更生運動の展開	
82	農山漁村経済更生運動のトップを切る海部郡飛鳥村 一九三三年(昭和八)六月十八日……………	169
83	「愛知県の経済更生計画と実行の概要」(地方農林主事 今泉敏) 一九三四年(昭和九)五月……………	170
84	県内すべての農山漁村経済更生計画完成 一九三四年(昭和九)五月四日……………	174
85	隣保団結精神で明朗な農村実現 一九三五年(昭和十)二月六日……………	175
86	部落常会の開き方 一九三五年(昭和十)十二月二十九日……………	176
	三 社会政策	
87	救護法施行に関する県社会課の注意事項 一九三一年(昭和六)十二月二十三日……………	178
88	昭和七年愛知県方面事業経過報告 一九三三年(昭和八)……………	183
89	児童擁護週間計画要項 一九三三年(昭和八)九月二十九日……………	186
90	方面委員の選定について県よりの照会 一九三四年(昭和九)二月二日……………	187

91	方面委員の選定について額田郡形埜村よりの回報 一九三四年(昭和九)三月二十二日	188
92	都市社会事業の目標を確立 一九三五年(昭和十)三月十四日	190
93	要救護者に対する「同情金」の募集 一九三六年(昭和十一)十一月三十日	191
94	碧海郡における社会事業の方針 一九三七年(昭和十二)一月十日	192
	四 県庁舎の新築	
95	県庁舎移転計画をめぐる県会の動向 一九三二年(昭和七)五月十四日	194
96	県庁舎改築についての県会での質疑 一九三三年(昭和八)十二月十五日	196
97	県庁舎新築落成記念の式辞 一九三八年(昭和十三)三月	200

### 第三章 日中戦争の全面化

#### 第一節 日中戦争の全面化と愛知県

	一 盧溝橋事件への対応	
98	碧海郡旭村における動員日誌(抄録) 一九三七年(昭和十二)七月	205
99	「北支事変」についての在郷軍人会支部長訓示 一九三七年(昭和十二)七月十八日	207
100	市町村長会議における知事訓示要旨 一九三七年(昭和十二)七月	208

101	「北支事変」に対する岡崎市民大会開催 一九三七年(昭和十二)八月十日	209
102	愛知県出動部隊後援会会則 一九三七年(昭和十二)八月十日	211
	二 第三師団の戦闘	
103	歩兵第六連隊第二大隊呉淞附近上陸戦闘詳報 一九三七年(昭和十二)八月二十三日	213
104	歩兵第六連隊第二大隊大場鎮附近戦闘詳報 一九三七年(昭和十二)十月	215

#### 第二節 「戦捷」行事と銃後体制の形成

	一 「戦捷」行事	
105	豊橋市における大場鎮陥落祝賀会 一九三七年(昭和十二)十一月十日	219
106	熱田神宮における上海陥落奉告祭 一九三七年(昭和十二)十一月十一日	220
107	戦死者 無言の帰国 一九三七年(昭和十二)十二月十一日	221
108	名古屋市における南京陥落祝賀行事 一九三七年(昭和十二)十二月十二日	222
109	南京陥落祝賀行事についての愛国婦人会の対応 一九三七年(昭和十二)十二月十七日	223
110	岡崎市における南京陥落奉告ならびに武運長久祈願祭 一九三七年(昭和十二)十二月二十五日	224
111	「支那事変」勃発一周年に際しての知事諭告 一九三八年(昭和十三)七月九日	227
	二 銃後体制の形成	

	a	出征軍人と遺家族支援	
112		軍事扶助法施行細則	228
		歩兵第十八連隊の戦没者取扱いについての規定	
113		一九三七年(昭和十二)七月一日……………	231
		一九三七年(昭和十二)九月二十一日……………	
114		軍人軍属の県税免除についての県条例	235
		一九三七年(昭和十二)十一月十六日……………	
115		豊橋市支那事変遺家族相談所規程	235
		一九三八年(昭和十三)二月十四日……………	
116		愛知県軍人遺家族世話係規程	236
		一九三八年(昭和十三)九月二十七日……………	
117		慰問金品募集統制についての岡崎市通牒	238
		一九三九年(昭和十四)二月十四日……………	
118		傷痍軍人に対する小学校教員養成所入所募集の依頼	239
		一九四〇年(昭和十五)六月十一日……………	
	b	防護団から警防団へ	
119		豊橋市各防護分団防空訓練計画	239
		一九三七年(昭和十二)十二月十日……………	
120		警防団施行細則の公示	242
		一九三九年(昭和十四)三月二十四日……………	
121		防護団の解団式と警防団の結成式	243
		一九三九年(昭和十四)五月二十日……………	
122		在郷軍人の警防団入団についての富岡警察署長通牒	245
		一九四一年(昭和十六)七月二十一日……………	
	c	軍需生産への動員	
123		軍需労務要員についての豊橋職業紹介所通牒	247
		一九四〇年(昭和十五)二月六日……………	

124		豊川海軍工廠就職案内	248
		一九四〇年(昭和十五)七月……………	
125		豊川海軍工廠における徴用工員宿舍の状況	250
		一九四一年(昭和十六)四月十五日……………	
		第三節 日中戦争期の政党と翼賛政治体制の形成	
		一 政党政治の崩壊	
	a	政党解散への道	
126		加藤鯛一の民政党県支部長就任	253
		一九三八年(昭和十三)十一月八日……………	
127		衆議院議員補欠選挙における政民両党の選挙戦回避	253
		鎌五郎日記(抄録)	
		一九三九年(昭和十四)一 五月……………	
128		加藤鎌五郎と政友会中島派 加藤鎌五郎日記(抄録)	254
		一九三九年(昭和十四)四月……………	
129		民政党的支持も得た加藤鎌五郎の代議士復帰	255
		一九三九年(昭和十四)五月二十六日……………	
130		愛知政友会における久原派の動き	255
		一九三九年(昭和十四)六月……………	
131		民政党県支部解散	256
		一九四〇年(昭和十五)八月二十三日……………	
132		小山松寿の宣伝省設置意見書(近衛首相宛)	257
		一九四〇年(昭和十五)八月二十三日……………	
	b	地方議会の衰退	
133		「豊橋同盟新聞創刊を祝す」(大口喜六)	260
		一九三八年(昭和十三)十一月一日……………	

147	「優良村」渥美郡神戸村の常会活動 一九四〇年（昭和十五年）十二月……………	282
146	大政翼賛会県支部結成に際しての知事訓示 一九四〇年（昭和十五年）十二月……………	279
145	大政翼賛運動豊橋即応会 一九四〇年（昭和十五年）十一月三日……………	278
144	県産業組合青年連盟と国民中核組織の建設練成 一九四〇年（昭和十五年）十一月三日……………	276
143	大政翼賛会発足に呼応する愛知県産青連大会 一九四〇年（昭和十五年）十月二十七日……………	273
142	大政翼賛会・三国同盟支持の県民大会 一九四〇年（昭和十五年）十月十四日……………	271
	二 翼賛政治体制の形成	
141	豊橋市会における党派消滅 一九四〇年（昭和十五年）十月二十八日……………	270
140	新体制下の県会 一九四〇年（昭和十五年）九月六日……………	270
139	市町村会選挙の候補者推薦会についての質疑応答例 一九四〇年（昭和十五年）八月……………	268
138	市町村会議員選挙の「可選七則」「不可選七則」 一九四〇年（昭和十五年）五月……………	266
137	県会における非政党组织の増加 一九三九年（昭和十四年）十一月九日……………	265
136	県会における新人議員の台頭 一九三九年（昭和十四年）九月二十七日……………	264
135	県会の対英強硬決議 一九三九年（昭和十四年）七月十八日……………	263
134	排英運動促進についての名古屋市会協議会 一九三九年（昭和十四年）七月八日……………	261

158	三部制撤廃に反対し名古屋市会・市部会協議会開催 一九三九年（昭和十四年）十一月二十三日……………	312
157	三部制撤廃についての県会での質疑 一九三五年（昭和十）十一月二十九日……………	308
156	三部制撤廃についての県会郡部会意見書 一九三四年（昭和九）十二月十九日……………	307
155	二 三部制廃止問題 苦しくなる県財政 一九三九年（昭和十四年）十二月六日……………	304
154	「地方税制改正案要綱に就て」（地方課長 岡田吉光） 一九三九年（昭和十四年）十一月……………	300
153	昭和十四年度予算についての県会での質疑 一九三八年（昭和十三年）十一月八日……………	297
	第四節 戦時行政機構の形成と県政	
	一 地方税制改革と県政	
152	大政翼賛会市町村支部役員・協会の議員の更新について 一九四三年（昭和十八年）一月二十六日……………	295
151	大政翼賛会県支部推進員整備状況 一九四一年（昭和十六年）十一月……………	292
150	県翼賛壮年団の組織要項 一九四一年（昭和十六年）十月十六日……………	291
149	大政翼賛会県経済事情聴取会 一九四一年（昭和十六年）九月十六日……………	288
148	大政翼賛会県協力会議 一九四一年（昭和十六年）三月十九日……………	286

159	三部制廃止後の善後措置問題についての委員会開催 一九四〇年(昭和十五)七月二十四日……………	313
160	三部制廃止後の善後措置について知事の提案説明 一九四〇年(昭和十五)九月五日……………	314
	三 自治制発布五十周年	
161	自治制発布五十周年についての知事諭告 一九三八年(昭和十三)四月二十九日……………	315
162	岡崎市における自治制発布五十周年記念式典 一九三八年(昭和十三)五月十日……………	316
163	自治記念日実施についての県通牒 一九三九年(昭和十四)三月二十八日……………	318
164	府県制発布五十周年記念事業の行程表・計画表 一九四〇年(昭和十五)四月二十六日……………	319
165	府県制発布五十周年記念回顧座談会の記録 一九四〇年(昭和十五)五月十三日……………	322
166	府県制発布五十周年記念事業の知事ラジオ放送原稿 一九四〇年(昭和十五)五月十七日……………	327
	<b>第四章 国家総動員体制下の社会的統合と統制</b>	
	<b>第一節 国民精神総動員運動の展開と思想統制</b>	
	一 国民精神総動員運動の展開	
167	国民精神総動員運動についての知事諭告 一九三七年(昭和十二)九月二十五日……………	335
168	県内各地における国民精神総動員強調週間 一九三七年(昭和十二)十月十四日……………	336

169	岡崎市における国民精神総動員強調週間実行要項 一九三七年(昭和十二)十月二十五日……………	338
170	国民精神総動員についての一般県民に対する宣伝 一九三七年(昭和十二)……………	339
171	額田郡下山村における国民精神総動員運動の実績 一九三七年(昭和十二)十二月……………	344
	二 思想統制運動の推進	
172	国民精神作興週間に際しての名古屋市長訓示 一九三八年(昭和十三)十一月七日……………	350
173	三河大浜だより 一九三九年(昭和十四)……………	352
174	銃後後援事業善行者表彰事蹟 一九三九年(昭和十四)三月……………	354
175	精動運動実施上の模範的事例の額田郡下山村回答 一九四〇年(昭和十五)七月十八日……………	355
	三 紀元二千六百年祭	
176	奉祝記念奉献米通伝について在郷軍人会通牒 一九三九年(昭和十四)十二月十九日……………	358
177	紀元二千六百年奉祝会寄附金募集についての県依頼 一九四〇年(昭和十五)九月十六日……………	362
178	紀元二千六百年奉祝式および奉祝行事実施要領 一九四〇年(昭和十五)十月二十四日……………	363
179	碧海郡棚尾村における奉祝行事 一九四〇年(昭和十五)十一月……………	365
180	岡崎市における紀元二千六百年祝典 一九四〇年(昭和十五)十一月二十五日……………	367
181	紀元二千六百年祝典記念章伝達について 一九四二年(昭和十七)十月十九日……………	368



## 第二節 国家総動員体制の構築と日常生活の統制

### 一 労働力の統制

#### a 産業報国運動の展開

182	愛知県労資関係調整方策要綱 一九三八年(昭和十三年)十月十五日……………	369
183	第一回産業報国会会長会議 一九三九年(昭和十四年)三月十五日……………	371
184	産業報国連合会結成式 一九三九年(昭和十四年)十二月十四日……………	374
	b 国民徴用令施行への対応	
185	国民徴用令の施行についての県通牒 一九三九年(昭和十四年)七月二十一日……………	375
186	町村事務主任打合会開催についての依頼 一九四〇年(昭和十五年)五月十一日……………	376
187	軍需労務委員供出についての町村事務主任打合会 一九四〇年(昭和十五年)五月……………	378
	c 県民皆働運動	
188	知事の県民皆働訓 一九四一年(昭和十六年)八月一日……………	379
189	県民皆働運動促進漫画 一九四一年(昭和十六年)八月十一日……………	382
190	豊橋市での県民皆働・国防産業強化大会 一九四一年(昭和十六年)八月二十五日……………	382
191	県民皆働運動について県職業課が疑点釈明 一九四一年(昭和十六年)八月二十八日……………	384

192	皆働運動についての知事直筆ピラを各家庭へ配布 一九四一年(昭和十六年)九月十八日……………	385
-----	--	-----

### 二 日常生活の統制

193	日常生活における家庭での注意事項 一九三八年(昭和十三年)三月十日……………	385
194	一戸一品廃物献納運動実施要項 一九三八年(昭和十三年)六月二十四日……………	388
195	中元贈答廃止と盂蘭盆会の新曆実施について 一九三九年(昭和十四年)八月五日……………	390
196	防諜週間実施に際し名古屋通信局からの注意 一九四一年(昭和十六年)五月十六日……………	391
197	官民一体の防諜戦 一九四一年(昭和十六年)五月二十五日……………	392
198	農繁期共同炊事の奨励 一九四一年(昭和十六年)六月十日……………	393
	三 統制機構としての常会	
199	豊橋市東新町町内会常会に県より指導員派遣 一九三八年(昭和十三年)二月二十五日……………	395
200	精動運動実践指導者協議会での常会実践報告 一九四〇年(昭和十五年)三月……………	395
201	部落会・町内会の整備拡充についての知事訓令 一九四〇年(昭和十五年)四月九日……………	401
202	額田郡宮崎村大字石原における部落常会規約 一九四〇年(昭和十五年)七月……………	404

## 第三節 国家総動員体制下の社会事業・厚生行政

### 一 「健康増進」という国是への対応

214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	
一宮市に国民保健所を建設	一宮市診療所竣工式ならびに開所式	結核予防運動実施週間についての宣伝ビラ配布	結核療養所の建設	結核予防国民運動振興についての県通牒	県立精神病院と結核療養所設立についての意見書	一宮市における厚生音楽協会主催行事の様相	一宮市における厚生音楽運動の進展	八名郡七郷村尋常高等小学校の健康増進運動の報告	八名郡における健康増進運動実施要綱	第二回日本厚生大会名古屋市民厚生大会概況	名古屋市内において第二回日本厚生大会開催	a 「健康増進」運動の展開
一九三七年(昭和十二)十月二十六日	一九三六年(昭和十一)五月二十日	一九四〇年(昭和十五)十一月二十日	一九三七年(昭和十二)五月十四日	一九三六年(昭和十一)十一月十日	一九三五年(昭和十)十二月二十日	一九四一年(昭和十六)九月	一九四〇年(昭和十五)九月	一九四〇年(昭和十五)四月二十八日	一九四〇年(昭和十五)一月	一九三九年(昭和十四)十一月十一日	一九三七年(昭和十二)十二月二十八日	
427	425	423	422	421	420	418	417	416	413	408	406	
227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215
ハンセン病療養所設立についての県会での質疑	県内での十坪住宅運動概況	ハンセン病患者入所についての中島郡奥町の対応	愛国婦人会岡崎分会の十坪住宅建設資金募集	「無癩府県運動」(長島愛生園事務官 四谷義行)	長島愛生園への十坪住宅寄附について県会での質疑	丹羽郡方面委員による十坪住宅建設資金募集趣意書	優生結婚奨励のため結婚資金を融通	県の国民健康保険組合設立五か年計画	国民優生法について県衛生課による講習会開催	国民健康保険制度普及について	愛知県保健所規程	母子保護法施行細則
一九四〇年(昭和十五)十二月四日	一九三七年(昭和十二)三月	一九三六年(昭和十一)八月	一九三六年(昭和十一)七月	一九三六年(昭和十一)六月	一九三五年(昭和十)十二月三日	一九三五年(昭和十)十月十五日	一九四一年(昭和十六)五月二日	一九四一年(昭和十六)二月二十一日	一九四一年(昭和十六)一月十一日	一九三八年(昭和十三)十月二十八日	一九三八年(昭和十三)四月十九日	一九三七年(昭和十二)十二月二十八日
446	444	442	440	439	436	434	433	432	431	431	430	428
							第四節 「無癩県運動」の展開と愛知県					
							一 「無癩県運動」の展開と「十坪住宅」建設募金運動					

228 「愛知県の無癩運動に就て」(長島愛生園長 光田健輔)  
一九四三年(昭和十八)……………449

二 小笠原登による隔離政策批判

229 「癩の極悪性の本質に就て」(小笠原登)  
一九三四年(昭和九)七月二十九日……………454

230 京都帝国大学新聞の小笠原博士訪問記  
一九三七年(昭和十二)一月二十日……………458

231 「癩患者の断種問題」(小笠原登)  
一九三八年(昭和十三)十二月……………460

232 ハンセン病患者收容施設拡張を求める学会建議書  
一九四一年(昭和十六)十一月十五日……………467

第五節 満州移民送出政策の展開

一 満州移民送出政策の展開

233 漫然渡満する者の阻止についての県通知  
一九三二年(昭和七)三月十五日……………469

234 満州自衛移民についての県通知  
一九三三年(昭和八)四月二十一日……………470

235 満州への移住民奨励政策保護に関する県会意見書  
一九三六年(昭和十一)十二月十七日……………471

236 満州農業移民先遣隊募集についての県要綱  
一九三七年(昭和十二)……………472

237 第六次満州農業移民先遣隊の訓練についての県通知  
一九三七年(昭和十二)二月二十五日……………476

238 満州農業移民内地訓練生の実弾射撃実施について  
一九三七年(昭和十二)三月二十五日……………478

二 「満州東三河村」建設計画の推移

239 「満州山吉田村建設の為に」(八名郡山吉田村)  
一九三九年(昭和十四)……………479

240 満州東三河村建設計画についての県要項  
一九三九年(昭和十四)……………487

241 満州東三河村現地事情講演会開催についての県通知  
一九四〇年(昭和十五)四月二十日……………491

242 分村建設事業中止について八名郡山吉田村の申請  
一九四一年(昭和十六)八月三十日……………492

243 満州山吉田村建設助成金返還についての県通牒  
一九四一年(昭和十六)十二月一日……………494

244 助成金返還命令について山吉田村からの陳情書  
一九四二年(昭和十七)三月四日……………495

245 満州開拓女子拓殖事業推進についての通牒  
一九四三年(昭和十八)七月二十日……………496

246 在満州愛知県農務隊員推薦についての県通知  
一九四五年(昭和二十)一月十一日……………497

247 満州第九次三合東三河郷開拓団補充団員募集要綱  
一九四五年(昭和二十)五月……………500

第五章 日中戦争下における都市の発展と都市構想

第一節 「百万都市」名古屋と県内各都市の発展

一 「百万都市」名古屋

a 名古屋の発展と都市構想

248 「名古屋とトリア・ポート」(名古屋商工会議所理事 三浦一)  
一九三二年(昭和七)六月……………505

249 名古屋都市計画の拡大  
一九三三年(昭和八)十一月十四日……………508

261	岡崎市市制二十周年と市の現状 一九三六年(昭和十一年)七月十日……………	528
260	岡崎多治見間鉄道の敷設促進 一九三四年(昭和九年)……………	524
259	豊橋市の運河網整備についての意見書 一九三二年(昭和七年)十二月二十六日……………	523
258	大豊橋の実現と産業市是の根本策樹立 一九三一年(昭和六年)十月二十七日……………	522
	二 県内各都市の発展と小都市計画	
	a 豊橋・岡崎の発展	
257	特別市制の実施実現に努力 一九三九年(昭和十四年)十月三十一日……………	522
256	特別市制の廃止のかわりに特別市制の実現を期す 一九三七年(昭和十二年)一月二十一日……………	520
255	三部制と特別市制についての県会での質疑 一九三四年(昭和九年)十二月八日……………	518
254	特別市制は何故に必要か？ 一九三二年(昭和七年)十月十五日……………	516
253	名古屋特別市制促進の期成同盟会 一九三二年(昭和七年)九月十四日……………	515
	b 名古屋市特別市制問題の展開	
252	「東山公園開園に際して」(東山動物園長 藤岡兵一) 一九三七年(昭和十二年)五月……………	512
251	歓楽境大須モンテカルロの実現へ 一九三六年(昭和十一年)六月二十三日……………	511
250	名古屋市の中心に二万坪の大盛場 一九三五年(昭和十)七月二十二日……………	510

272	金鯨修理についての名古屋市協議会での質疑 一九三七年(昭和十二年)二月三日……………	547
271	名古屋汎太平洋平和博覧会の開会 一九三七年(昭和十二年)三月十六日……………	545
270	汎太平洋平和博覧会一般計画 一九三七年(昭和十二年)三月……………	542
269	汎太平洋博補助費についての知事の追加提案説明 一九三五年(昭和十)十二月十六日……………	541
268	汎太平洋平和博覧会についての名古屋市長声明書 一九三五年(昭和十)六月二十五日……………	540
267	名古屋汎太平洋平和博覧会趣意書 一九三五年(昭和十)六月……………	539
	一 名古屋汎太平洋平和博覧会の開催	
266	躍進尾張知多に半田市誕生 一九三七年(昭和十二年)七月十九日……………	536
265	瀬戸市の都市計画事業 一九三七年(昭和十二年)六月二十日……………	535
264	一宮市都市計画区域決定理由書 一九三六年(昭和十一年)十月七日……………	533
263	小都市計画第一期事業の開始 一九三五年(昭和十)七月六日……………	532
262	都市計画法適用都市の調査 一九三三年(昭和八)六月二十五日……………	530
	b 小都市計画と諸都市の発展	
266	第二節 名古屋汎太平洋平和博覧会と「中京」の確立	

273 名古屋市の増区  
一九三七年(昭和十二) 九月…………… 549

274 熱田神宮中心に神都計画  
一九三八年(昭和十三) 二月二十五日…………… 552

275 名古屋帝国大学設置場所の決定  
一九三九年(昭和十四) 五月九日…………… 554

276 名古屋市の地下鉄計画  
一九三九年(昭和十四) 九月二十四日…………… 555

277 更に大中京建設  
一九四〇年(昭和十五) 二月二十七日…………… 556

### 第三節 都市の戦時体制化

#### 一 防空都市の形成

278 「防空上防火の重要性」(愛知県建築課長 井上新一)  
一九三九年(昭和十四) 二月…………… 557

279 名古屋市内の防空公園  
一九四〇年(昭和十五) 七月二十三日…………… 560

280 「名古屋市の将来」(佐藤正俊)  
一九四二年(昭和十七) 二月…………… 561

#### 二 軍需景気と都市

##### a 軍需景気と住宅対策

281 軍需大工場の職工にアパート  
一九三八年(昭和十三) 十一月二十七日…………… 565

282 「県営労働者住宅建設に至る迄」(愛知県社会教育主事 三輪小太郎)  
一九四〇年(昭和十五) 一月…………… 567

##### b 新興都市と都市計画

283 「町村」への都市計画適用  
一九三七年(昭和十二)…………… 570

284 西加茂郡拳母町の土地区画整理  
一九三八年(昭和十三) 一月二十七日…………… 572

285 「農村都市」安城論(安城町農会技師 樋口誠)  
一九三八年(昭和十三) 一月…………… 574

## 第六章 アジア太平洋戦争と翼賛政治体制

### 第一節 アジア太平洋戦争の戦局と愛知県

#### 一 アジア太平洋戦争の勃発

286 米英に対する宣戦詔勅についての知事諭告  
一九四一年(昭和十六) 十二月九日…………… 581

287 宣戦詔勅についての名古屋市長諭告  
一九四一年(昭和十六) 十二月九日…………… 582

288 岡崎市における国威宣揚時難突破祈願祭  
一九四一年(昭和十六) 十二月二十五日…………… 583

289 開戦直後の経済と県民の動向  
一九四一年(昭和十六) 十二月…………… 584

#### 二 戦局の推移と愛知県の動向

290 名古屋初空襲と県民の動向  
一九四二年(昭和十七) 四月…………… 585

291 愛知県航空青少年隊の結成  
一九四二年(昭和十七) 八月二十日…………… 586

292 軍人・軍属・被徴用者に対する県税免除  
一九四二年(昭和十七) 十一月十六日…………… 588

293	「敵愾心昂揚」運動	一九四三年(昭和十八)五月三十一日	589
294	献納飛行機命名式式場要図	一九四三年(昭和十三)九月二十日	591
295	サイパン島失陥についての常会の対応	一九四四年(昭和十九)七月	592
296	県翼賛壮年団による「士気昂揚」運動	一九四四年(昭和十九)十月十六日	594
297	台湾沖航空戦等についての豊橋市会の決議	一九四四年(昭和十九)十月三十日	599
<b>第二節 翼賛選挙</b>			
298	翼賛政治体制協議会県支部長に坂井徳太郎中将	一九四二年(昭和十七)三月十九日	601
299	翼賛政治体制協議会県支部の構成	一九四二年(昭和十七)三月二十一日	602
300	啓蒙運動の実施上注意を要する事項	一九四二年(昭和十七)三月二十五日	603
301	選挙運動制限についての県警察部案	一九四二年(昭和十七)四月六日	607
302	推薦立候補者田島栄次郎陸軍中将へのインタビュー	一九四二年(昭和十七)四月十五日	609
303	翼賛選挙における選挙運動の状況	一九四二年(昭和十七)四月二十一日	612
304	翼協坂井県支部長が語る翼賛選挙運動の経過	一九四二年(昭和十七)四月三十日	613
305	翼賛選挙あとがき	一九四二年(昭和十七)五月三日	615

306	翼賛選挙と加藤録五郎 加藤録五郎日記抄録)	一九四二年(昭和十七)二月五日	618
<b>第三節 戦時行政体制の展開と県政</b>			
一 戦局の悪化と県政			
307	戦局と県の対応についての知事訓示	一九四二年(昭和十七)二月	622
308	官庁事務の簡素化	一九四四年(昭和十九)八月二十八日	627
309	戦時行政についての知事の提案説明	一九四四年(昭和十九)十一月二十日	628
二 地方事務所設置と広域行政			
310	地方事務所処務規程	一九四二年(昭和十七)七月一日	632
311	地方事務所運営方針	一九四二年(昭和十七)七月十日	636
312	「地方事務所への要望」(安城町農会理事 岩月辰市)	一九四二年(昭和十七)八月	637
313	東海行政協議会についての県会での質疑	一九四三年(昭和十八)十一月二十二日	638
314	地方事務所への権限委譲についての中間報告	一九四四年(昭和十九)五月三日	642
315	東海地方行政協議会事務局規程	一九四四年(昭和十九)七月二十二日	644
<b>第四節 戦時下の部落会・町内会と町村行政</b>			

	一	部落会・町内会の整備	
316		部落会町内会隣保班の整備指導について県通牒 一九四〇年(昭和十五)九月二十四日	646
317		部落会町内会指導者講習会開催についての県通牒 一九四〇年(昭和十五)十月三日	648
318		町内会等の整備についての名古屋市長告諭 一九四〇年(昭和十五)十一月十五日	650
319		町内会制度の法制化および国庫助成金交付についての名古屋 屋市要望事項 一九四二年(昭和十七)十月九日	652
320		町内会制度法制化についての名古屋市調査資料 一九四二年(昭和十七)十月二十九日	653
321		部落会等と翼賛壮年団との関係についての県翼賛壮年団長 通知 一九四二年(昭和十七)十月二十日	654
322		部落会町内会振興施設助成要綱 一九四二年(昭和十七)	655
323	二	戦時下の常会	
		家庭絵ばなし 新体制と町内会 一九四〇年(昭和十五)	656
324		優良部落会町内会隣保班等の調査 一九四一年(昭和十六)	659
325		町内会回報についての名古屋市通牒 一九四一年(昭和十六)八月五日	662
326		町内会関係文書統制要綱改正についての名古屋市通牒 一九四一年(昭和十六)八月八日	663
327		常会定例日の設定についての県通牒 一九四一年(昭和十六)十二月二十三日	664

328		町内会消費経済部設置案をめぐる関係方面の動向 一九四二年(昭和十七)六月十五日	665
329		国債貯蓄制度についての隣組回覧板 一九四三年(昭和十八)	668
330		町内会部落会納税部整備についての県通牒 一九四三年(昭和十八)六月八日	669
331	三	町村行政の統合化	
		町村制改正についての知事訓示 一九四三年(昭和十八)六月十二日	671
332		町村制改正についての留意事項 一九四三年(昭和十八)七月二十日	672
333		官吏の服務についての知事訓令 一九四四年(昭和十九)十月三十一日	676
334	第五節	戦時統制と動員の徹底	
	一	経済統制	
		経済道義昂揚運動実施要綱 一九四二年(昭和十七)一月二十八日	677
335		衣料切符制の開始 一九四二年(昭和十七)二月一日	681
336		昭和十七年の歳末経済事情 一九四二年(昭和十七)十二月二十九日	682
337		タバコの職域配給 一九四四年(昭和十九)十一月九日	682
	二	人的動員と生産力増強	

350	金属動員報国運動についての県翼賛壮年団長通牒 一九四二年(昭和十七)十月十二日	703
349	昭和十七年度国民貯蓄増強方策 一九四二年(昭和十七)五月二十八日	699
348	貯蓄等についての市町村長会議指示事項 一九四二年(昭和十七)三月十三日	697
347	航空機増産運動についての名古屋市長報告 一九四四年(昭和十九)九月十八日	695
346	航空機工場用食糧増産への協力依頼 一九四四年(昭和十九)五月二十八日	694
345	聖旨奉答航空機増産県民総決起運動要綱 一九四四年(昭和十九)五月一日	691
344	徴用工員の適所適材配置 一九四四年(昭和十九)四月二十二日	690
343	欠勤中の徴用工員の動静調査について豊川海軍工廠よりの照会 一九四四年(昭和十九)三月二十一日	690
342	結核撲滅のための集団検診実施 一九四三年(昭和十八)五月二十日	689
341	新規要員徴用について県よりの依頼 一九四二年(昭和十七)七月二十四日	688
340	国民体力検査についての県警察部長通牒 一九四二年(昭和十七)七月十一日	686
339	進学より就職を勧める県教育課長の談話 一九四一年(昭和十六)十二月二十一日	685
338	国民労務手帳法の施行 一九四一年(昭和十六)七月二十五日	683

362	有資格者総入会断行に関する県支部指示事項 一九四四年(昭和十九)十一月一日	722
361	有資格者総入会における婦人会費の徴収について 一九四四年(昭和十九)六月十三日	721
360	結婚委員設置促進について 一九四四年(昭和十九)五月二日	720
359	大日本婦人会名古屋支部現地報告 一九四四年(昭和十九)一月	717
358	有資格者総入会運動について県支部よりの依頼 一九四三年(昭和十八)八月十三日	716
357	早期結婚健全結婚の奨励の印刷物配布について 一九四三年(昭和十八)四月二十七日	713
356	官庁公共団体保有アルミについての田口農林学校回答 一九四四年(昭和十九)十二月二十三日	713
355	白金の供出申告 一九四四年(昭和十九)十一月十四日	712
354	ダイヤモンドの任意供出 一九四四年(昭和十九)八月十五日	711
353	手持現金の貯蓄化運動実施要領 一九四三年(昭和十八)六月	709
352	羊毛供出についての協力依頼 一九四三年(昭和十八)四月二十五日	708
351	金属供出運動をめぐる賞罰 一九四三年(昭和十八)三月五日	706

四 女性の動員

a 大日本婦人会の活動

b 女子勤労挺身隊



363	女子勤労働員についての県通牒	1943年(昭和十八)	十一月十八日	722
364	地域女子勤労働挺身隊結成出動要領	1944年(昭和十九)	四月五日	725
	五 「謀略」への警戒と取締り			
365	防諜協会県委員会誕生	1942年(昭和十七)	五月三十日	728
366	防諜法規違反の事例	1942年(昭和十七)	七月十四日	729
367	対謀略防衛演習	1942年(昭和十七)	七月十八日	731
<b>第六節 戦時動員体制と朝鮮人・中国人</b>				
368	朝鮮人学童不就学者に関する県会での質疑	1932年(昭和七)	十二月七日	733
369	相愛会岡崎本部の決議事項	1936年(昭和十)	七月十九日	734
370	朝鮮人についての県警察特高課の対応	1938年(昭和十三)	十一月一日	735
371	朝鮮出身者の内地高等諸学校進学についての県通牒	1943年(昭和十八)	十一月二十六日	736
372	在内地朝鮮人中等学校卒業者の就職斡旋について	1944年(昭和十九)	一月二十日	737
373	朝鮮人所在不明壮丁一斉捜査についての協力依頼	1944年(昭和十九)	四月一日	741
374	「在任朝鮮人の要注意動向」(内務省警保局)	1944年(昭和十九)	十月	742

375	東南海地震後の治安状況	1944年(昭和十九)	十二月九日	747
376	朝鮮人同胞第二次一斉調査について	1945年(昭和二十)	二月八日	748
377	就労中国人についての地崎組と軍との契約書	1945年(昭和二十)	四月二十一日	748
378	地崎組より愛知県への生活用品特別配給申請書	1945年(昭和二十)		749
379	就労中国人に関する調査について	1948年(昭和二十三)	五月八日	750
380	就労中国人に関する調査について地崎組からの報告	1948年(昭和二十三)	五月十七日	751
<b>第七章 空襲・本土決戦体制と戦争の終結</b>				
<b>第一節 防空対策の強化と疎開</b>				
	一 防空対策の推移			
381	防空警報発令間の措置についての県警察部長通知	1942年(昭和十七)	四月二十八日	757
382	軍官民連合特別総合防空訓練の実施	1943年(昭和十八)	一月二十一日	761
383	警防団の強化についての岡崎警察署長通牒	1944年(昭和十九)	六月二十日	763
384	空襲による変死者検死についての県通知	1944年(昭和十九)	十月三日	767
385	防空待避壕の構築例	1944年(昭和十九)	十二月	768

二 防空疎開の展開

386 名古屋防空疎開実行本部規程  
一九四四年(昭和十九)一月四日……………770

387 疎開事業等についての知事の提案説明  
一九四四年(昭和十九)一月二十五日……………771

388 都市疎開受入態勢整備について大浜警察署長より依頼  
一九四四年(昭和十九)三月十五日……………778

389 名古屋地域都市疎開推進警防団員動員要綱  
一九四四年(昭和十九)四月十七日……………780

390 建築物疎開進捗状況  
一九四四年(昭和十九)五月五日……………782

391 人員疎開受入態勢についての八楽地方事務所長通牒  
一九四五年(昭和二十)三月六日……………783

392 八名郡七郷村における人員疎開受入状況報告  
一九四五年(昭和二十)五月二十四日……………785

第二節 東南海地震と三河地震

一 地震被害状況

a 東南海地震の被害状況

393 天災に怯まず復旧  
一九四四年(昭和十九)十二月八日……………786

394 東南海地震発生直後の被害状況についての県警察部調査速報  
一九四四年(昭和十九)十二月八日……………787

395 東南海地震についての実地踏査報告速報  
一九四五年(昭和二十)三月三日……………789

b 三河地震の被害状況

396 再度の震災も何ぞ  
一九四五年(昭和二十)一月十四日……………794

397 三河地震被害状況  
一九四五年(昭和二十)一月……………796

二 地震復興

398 市内の全壊家屋復旧せず買上げて防空資材に  
一九四四年(昭和十九)十二月十三日……………802

399 震災罹災者の県税減免  
一九四四年(昭和十九)十二月十六日……………803

400 震災地の租税減免  
一九四四年(昭和十九)十二月二十九日……………804

401 掘立小屋急造も恐るべき流言から  
一九四五年(昭和二十)一月二十一日……………806

402 罹災者用菓子受付済確認書送付についての依頼書  
一九四五年(昭和二十)一月二十五日……………807

403 戦時下の町村における地震復興  
一九四五年(昭和二十)三月二日……………807

第三節 本土空襲の激化と行政の対応

一 本土空襲の本格化

404 空襲下の職場死守を説く軍需監理部長の談話  
一九四四年(昭和十九)十二月十九日……………810

405 日銀資料にみる名古屋一二・一八空襲  
一九四四年(昭和十九)十二月十九日……………811

406 空襲による罹災者に対する対策  
一九四四年(昭和十九)……………813



430	常会徹底事項についての大政翼賛会県支部通知 一九四五年(昭和二十)三月十七日	869
431	東海北陸地方行政協議会事務局設置規程 一九四五年(昭和二十)三月十七日	872
432	思想謀略防衛についての豊川憲兵分隊長通牒 一九四五年(昭和二十)四月一日	873
433	思想・通貨謀略防遏についての部落会長懇談会通知 一九四五年(昭和二十)	874
434	八角査察使行政査察説明資料にみる疎開と復旧事業 一九四五年(昭和二十)	877
435	北海道就農疎開者募集について 一九四五年(昭和二十)七月十七日	884
436	地方総監府の設置について 一九四五年(昭和二十)七月二十日	884
437	敵の先手を行く県政運営についての知事の決意 一九四五年(昭和二十)八月九日	885

三 国民義勇隊の結成

438	愛知県国民義勇隊組織規定 一九四五年(昭和二十)	886
439	大日本婦人会解散についての額田郡形埜村支部通知 一九四五年(昭和二十)六月六日	888
440	国民義勇隊組織に伴う警防団の運営について 一九四五年(昭和二十)六月二十日	890
441	愛知県義勇隊要綱改正 一九四五年(昭和二十)七月二十七日	891
442	額田郡下山村における八月常会徹底事項 一九四五年(昭和二十)八月三日	893

第五節 敗戦

443	日銀資料にみる終戦後の東海地方状況報告 一九四五年(昭和二十)八月	895
444	和平宣示に対する軍部方面の動向についての知事報告 一九四五年(昭和二十)八月十八日	895
445	帰郷兵の兵器携行隠匿についての横浜警察署長通達 一九四五年(昭和二十)九月二日	899
446	連合国軍進駐に伴う回覧板送付について県通達 一九四五年(昭和二十)九月十三日	900
447	戦争に直結する文字削除等についての額田事務所長通達 一九四五年(昭和二十)九月二十五日	902
448	戦争終結と戦後の県政についての知事訓示 一九四五年(昭和二十)九月二十八日	902
449	終戦後の民心の動向等についての知事報告 一九四五年(昭和二十)九月三十日	909
450	官庁公文書及び記録復帰指令についての対応 一九四六年(昭和二十)一月	917